

【3】小佐世保地区ってこんなまちです

(小佐世保地区の紹介)

なじみ深い烏帽子岳のすそ野に拡がり、山も海も街も一望に見渡せる環境に位置する小佐世保地区は白木町、東小佐世保町、西小佐世保町、須佐町、須佐団地、東高梨町、西高梨町の4つの自治会と3つの公民館の組織で成り立ち、小佐世保小学校区7ヶ町（通称7ヶ町）と呼んでいます。

ふりかえてみますと、昭和13年の町名制定以前から今日まで、主に閑静な住宅地として着実な歩みを続けてきています。

地形的に斜面地であるため坂道や石段が多い地区ですが、日本一の長さを誇るアーケードのある商店街まで歩いて20分程の距離であり、また高梨循環や山祇循環などバスの便もよいことから、大変利便性の高い地区と言えます。

さて、各町内では、それぞれ町民の親睦と融和を図るため、独創的に年間行事を実施し、隣組意識の高揚や連帯感の向上を目指しています。また、各町相互の連携を深めるために、当番町において2年ごとに簡単なレクリエーション大会を開催しており、多くの町民が和気あいあいと競技を楽しんでいます。この地区では事故や事件も少なく「安定した生活環境にあるのは、多くの住民の理解や協力のお陰」と感謝しているところです。

近年は、この地区でも少子化が進み、小佐世保小学校や旭中学校の児童生徒も減少傾向にありますが、地区の子どもたちは明るくのびのびとしています。登下校時や遊びの時など、声をかけると素直に返事をかえしてくれます。「あいさつは人生の潤滑油」とはこのことで、家庭での躾や学校での道徳教育、さらに地域社会でのあいさつ運動などの大切さが感じられます。

〔佐世保市における小佐世保地区の位置〕

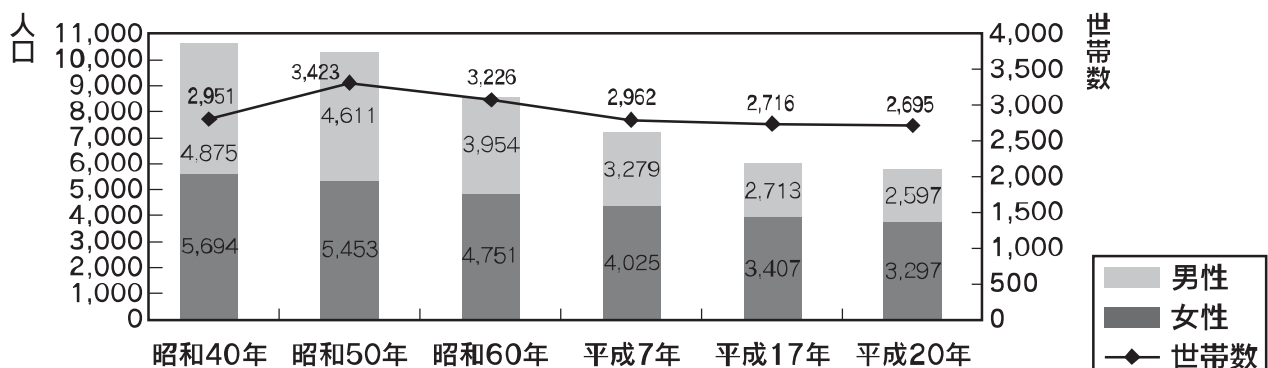


★小佐世保地区って……どのあたりをいうの？

現在、小佐世保地区と呼ばれる範囲は、次のとおりです。

町名	小佐世保町	白木町	須佐町	高梨町
----	-------	-----	-----	-----

(小佐世保地区の人口推移) ※いずれも10月1日時点の統計資料



（小佐世保地区“わがまち自慢”）

小佐世保地区には“自慢”がいっぱい！その一部を紹介します。

八龍神社

八龍神社は小佐世保小学校の校門から200mの所にあり、佐世保の古い神社の一つとして、石灯籠には安政（江戸時代末期）の文字が見られます。祭神は八大龍王で雨乞いの神様として知られており、干ばつの時に雨乞いの神事が行われたそうです。拝殿の裏には巨岩が2つあることから、巨岩信仰もあったようです。

また、境内には棕の木の大木もあり、巨石と大木の深遠なる歴史のある神社には、県内外からも参拝者が訪れます。毎年9月2日に、八幡神社の宮司が祭司となって例祭を行っています。



須佐神社

須佐神社には御祭神として素盞鳴大神他9柱が祭られています。神殿は天然の洞窟であり、御座所の真下は深い井戸となっています。古来、妙見宮みょうけんぐうとも巖屋宮いわやぐうともいわれるほか、俗間では穴妙見あなみょうけんとも呼ばれ、靈験あらたかな地域の産土神うぶすながみとして信仰を集めています。また、平戸八景の一つとして、土地の名勝地になっています。

氏子は東高梨・西高梨・須佐・高天・宮崎・光月・祇園2組の7ヶ町約1800戸からなっています。

また、境内には高天町から移設された高天神社も祭られています。



自然豊かな小佐世保小学校

『烏帽子岳の山ふところに 清き泉の湧き出るところ
世に学林のほまれも高く 歴史は古し小佐世保われら』

小佐世保小学校の校歌の一節です。歌詞にあるとおり学校の裏にある溝は、日々横の石垣から清水が湧き出しており、ヤゴ・ドンポ・カニ・アメンボ・メダカなどいろいろな生物が生息しています。

また、学校の横を流れる小佐世保川側には学林が生い茂り、子どもたちの様子を見守っている感があります。

このように小佐世保小学校は、自然に恵まれた素晴らしい学校です。



公民館の染井吉野

東小佐世保町公民館に3本の老桜があります。昭和27年公民館建設の記念に植えられたそうです。日当たりがよいので、幹回りが3m余りになっている桜もあります。幹の根元には空洞ができ苔が生えていますが、それもまた買祿です。毎年春先に、蕾が見つければ安堵し、花が開いたと喜び、花吹雪の様子を見ては思わず歓声があがります。

また、傍らには天保3年（1832年）に造られた観音堂や、大正13年（1924年）の昭和天皇ご成婚記念の艦砲、また昔の生活用水の古井戸などもあり、歴史ある場所です。

